

平成25年11月7日  
国土交通省九州地方整備局  
遠賀川河川事務所

## 遠賀川が先生です。

～身近な題材である遠賀川を用いた学習教材で、子どもたちの理解が深まります！～

遠賀川河川事務所では、平成24年度より遠賀川流域内の小学校など教育機関と連携し、幅広い防災知識・環境知識の向上を目指した「水防災・水環境河川学習プログラム」に取り組んでいます。

### 【水防災・水環境河川学習プログラムの特徴】

- ①総合学習ではなく、理科・社会科の授業で担任の先生が実施。
- ②自分たちの住む地域を流れる遠賀川（支川を含む）を学習教材に加えることで、実感を伴う理解を促進するとともに、ふるさとへの愛着を育むことを期待。
- ③複数の学習素材を準備し、その中から担任の先生が自由に選択し授業で活用。

### 【今年度の取り組み】

昨年度は直方市内の1校で、社会科の試行授業を行いました。今年度は、教育委員会等のご協力を頂き、直方市4校、飯塚市6校、田川市1校の計11校で、理科、社会科の試行授業を行い、教材の充実を進めているところです。

### <試行授業の実施校>

直方市（4校）：直方南小、直方北小、下境小、植木小

飯塚市（6校）：片島小、伊岐須小、楽市小、若菜小、椋本小、大分小

田川市（1校）：大浦小

### 【この記者発表に関する問合せ先】

福岡県直方市溝堀1-1-1

国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所

（電話：0949-22-1830（代表））

防災情報課長 島崎 剛

建設専門官

原田 佐良子

【同時発表記者クラブ】 北九州地区、直方地区、飯塚地区、田川地区

## 【目的】

- 学校の先生が行う正式な科目(理科・社会科)の中で、**継続的に**水防災や水環境学習を行い、児童たちへの**防災・環境知識の普及**を目指す。
- 身近な題材である遠賀川**を用いた教材を提供することで、児童たちの実感を伴う**理解を促進**すると同時に、**ふるさとへの愛着**を育む。
- 児童を通じ、**保護者への防災意識、水環境改善の意識の向上の広がり**を期待。

## 【パッケージ型教材の作成】

授業時期：5学年2学期（10～11月）

### 理科「流れる水のはたらき」

- 身近な遠賀川の素材で流水の働きを知る
  - 実感を伴った洪水発生メカニズムを学ぶ
- 身近な遠賀川を題材にした教材により、地域への愛着を育み、環境問題に取り組む素地を養います。  
また、実感を伴った洪水発生メカニズムを学ぶことで、防災への理解を促します。

連動した  
学習

授業時期：5学年3学期（2～3月）

### 社会科「自然災害から守る」

- 遠賀川流域で最も起こりやすい自然災害である「風水害」に焦点をあて学習
- 身近な遠賀川の「風水害」に焦点をあて、なぜ日本では災害が起こりやすいか、国や市町村の防災対策（公助）、自然災害に備えて自分たちでできること（自助・共助）が何かを学びます。

## 【平成24年度の取組み】

- 直方市をモデル地区とし、教育委員会、理科・社会科研究会等と理科、社会科で計6回の検討会を行い、河川学習プログラムの検討を行った。
- 社会科については、平成25年2月に3時間の試行授業を行い、教材の検証を実施。
- 児童の理解度、先生及び保護者の評価を確認し、教材作成に活用させた。



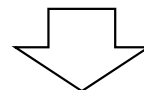
H25.2.20 直方市立  
直方北小学校試行授業（社会科）

## 【平成25年度の取組み】

- 流域全体に広げる足がかりとして、5～9月に直方市、飯塚市、田川市の教育委員会や校長会に事前説明。
- 昨年度未実施の理科においても、試行授業を実施。
- 10月より、**直方市4校、飯塚市6校、田川市1校**で、理科の試行授業を実施中。

直方市：直方南小、直方北小、下境小、植木小  
飯塚市：片島小、伊岐須小、楽市小、若菜小、椋本小、大分小  
田川市：大浦小

- 2～3月は、**社会科の試行授業を実施予定。**



- 試行授業実施後、先生たちのご意見を反映させながら、**遠賀川流域版として、教材改訂予定。**



H25.10.16 飯塚市立  
椋本小学校試行授業（理科）